

平成24年3月期  
第2四半期決算説明資料

平成23年11月11日

 川重冷熱工業株式会社

# 平成24年3月期第2四半期決算概要

# 平成24年3月期第2四半期決算の総括 川重冷熱

当第2四半期累計期間の当社の受注高は、空調事業の改修改造工事・メンテナンスが減少したもののボイラ事業の機器本体・改修改造工事の増加により、前年同期比2億60百万円増加の101億22百万円となりました。売上高は、ボイラ事業の機器本体・改修改造工事が増加したものの空調事業の機器本体の減少により、前年同期比3億53百万円減少の72億66百万円となりました。

利益面では、研究開発費等の増加により、営業利益は、前年同期比2億4百万円減少の68百万円、経常損益は、PCB処理費用見積額81百万円を環境対策費として計上したこと等により、前年同期比3億1百万円減少の29百万円の経常損失となりました。四半期純損益は、前年同期に2億98百万円の特別損失の計上があったことにより、前年同期比1億22百万円好転の28百万円の純損失となりました。

# 平成24年3月期第2四半期損益計算書 川重冷熱

金額単位：百万円(百万円未満切捨て)

	前第2四半期	当第2四半期	前年同期比	備 考
売 上 高	7,620	7,266	95.4%	第2四半期決算の総括に記載の通り。
売上総利益	2,008	1,908	95.0%	
販売費及び一般管理費	1,735	1,840	106.1%	
営業利益	273	68	24.9%	
営業外収益	11	26	236.4%	
営業外費用	13	124	953.8%	環境対策費の計上による
経常損益	271	△ 29	-	
特別損失	298	-	-	
税引前四半期純損益	△ 26	△ 29	111.5%	
法人税等	125	△ 1	-	
四半期純損益	△ 151	△ 28	18.5%	

# 平成24年3月期第2四半期貸借対照表



## 資産の部

金額単位：百万円(百万円未満切捨て)

	前第4四半期	当第2四半期	備 考
流動資産	7,579	7,547	
現金及び預金	12	6	
受取手形・売掛金	5,232	5,064	
棚卸資産	1,054	1,484	受注残の増加による
繰延税金資産	281	292	
その他の流動資産	998	698	
固定資産	3,317	3,736	
有形固定資産	1,645	1,631	
無形固定資産	360	322	
繰延税金資産	1,067	1,067	
投資その他の資産	243	715	関係会社への増資による
資産合計	10,897	11,284	

# 平成24年3月期第2四半期貸借対照表 川重冷熱

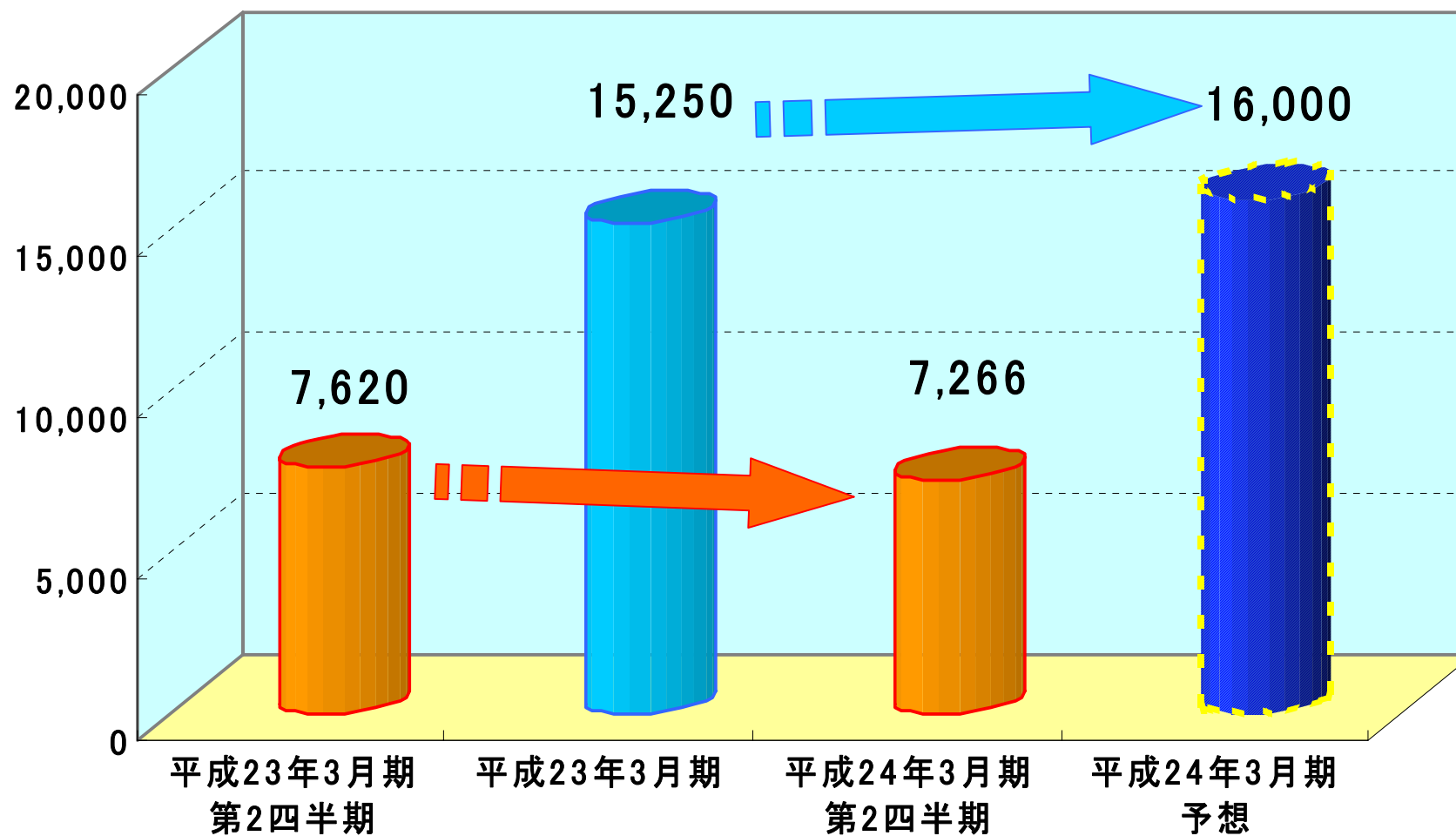
## 負債・純資産の部

金額単位：百万円(百万円未満切捨て)

	前第4四半期	当第2四半期	備 考
流動負債	4,267	4,707	
支払手形・買掛金	3,047	3,337	
未払法人税等	24	18	
その他の流動負債	1,195	1,352	
固定負債	2,643	2,668	
退職給付引当金	2,564	2,522	
その他の固定負債	78	146	環境対策費の計上による
負債合計	6,910	7,376	
資本金	1,460	1,460	
資本剰余金	1,228	1,228	
利益剰余金	1,302	1,223	
自己株式	△ 16	△ 17	
その他有価証券評価差額金	11	12	
純資産合計	3,986	3,908	
負債・純資産合計	10,897	11,284	

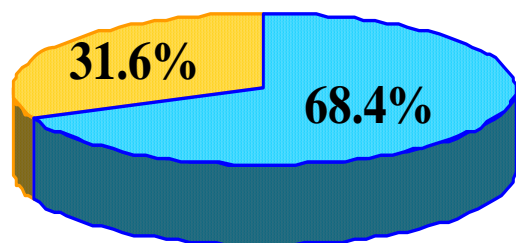
# 売上高の推移

(単位:百万円)



# 売上高構成比の比較

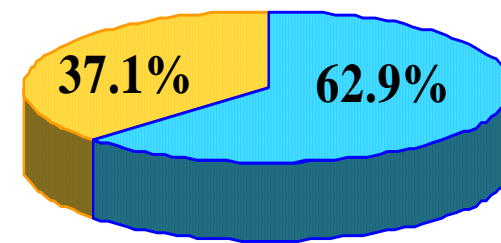
ボイラ事業



空調事業

平成23年3月期  
第2四半期決算

ボイラ事業



空調事業

平成24年3月期  
第2四半期決算



# 事業区分別分析

## 空調事業

- ①機器本体の売上高は、大型吸収冷温水機の減少により、前年同期を下回りました。
- ②改修改造工事・メンテナンスの売上高は、オーバーホール等の大口工事が、減少したことが影響し、前年同期を下回りました。

## ボイラ事業

- ①機器本体の売上高は、大型の水管ボイラならびに大型貫流ボイラの増加により前年同期を上回りました。
- ②改修改造工事・メンテナンスの売上高は、省エネ改造等の工事が増加したため、前年同期を上回りました。

**平成24年3月期 業績予想**

# 平成24年3月期の業績予想



金額単位：百万円(百万円未満切捨て)

	平成23年3月	今期予想	前年同期比	備 考
売 上 高	15,250	16,000	104.9%	
空調事業	10,332	10,400	100.7%	
ボイラ事業	4,918	5,600	113.9%	
営業利益	488	402	82.4%	
経常利益	491	400	81.5%	
当期純損益	△ 133	210	-	

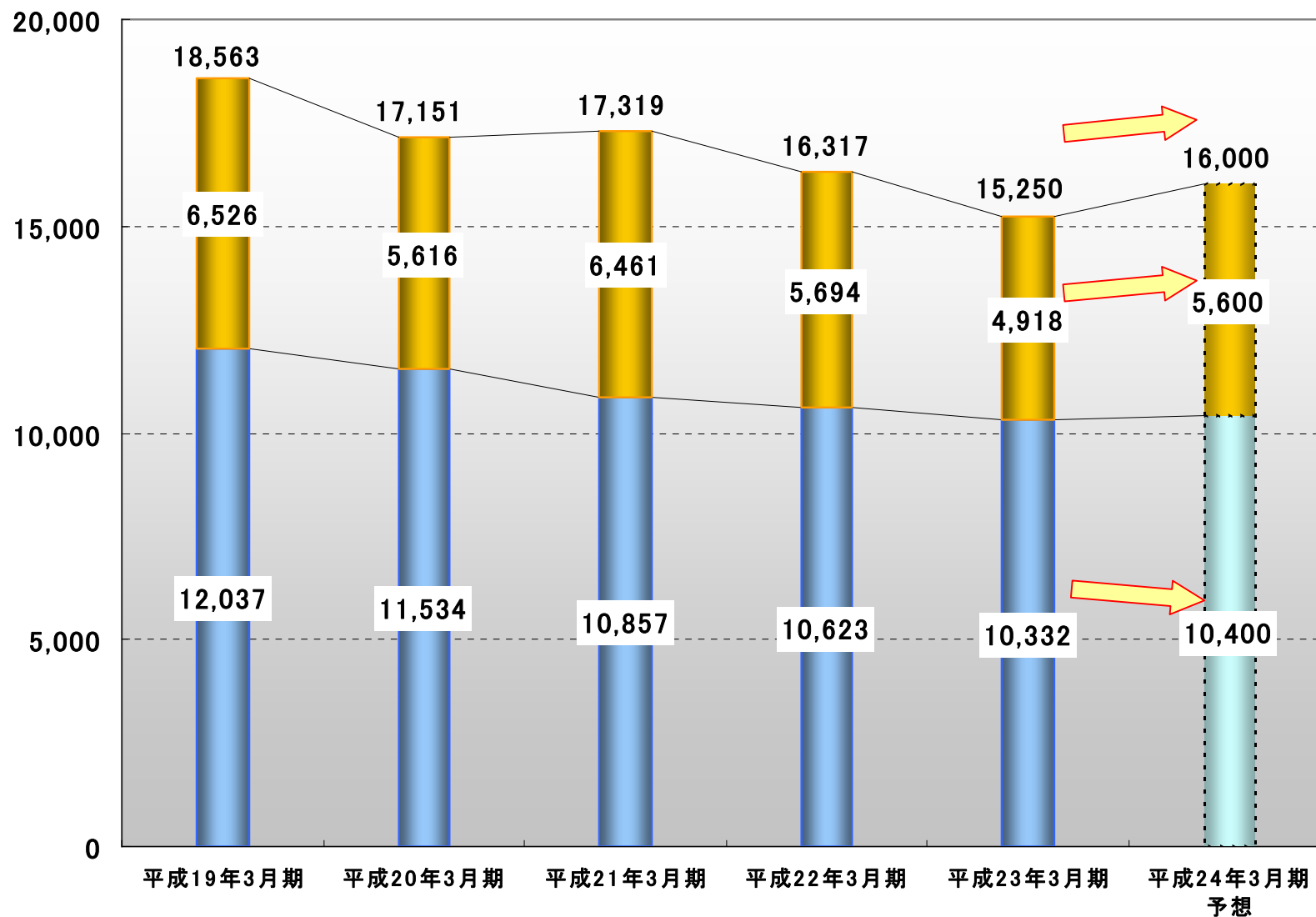
# 売上の推移(予想)



(単位:百万円)

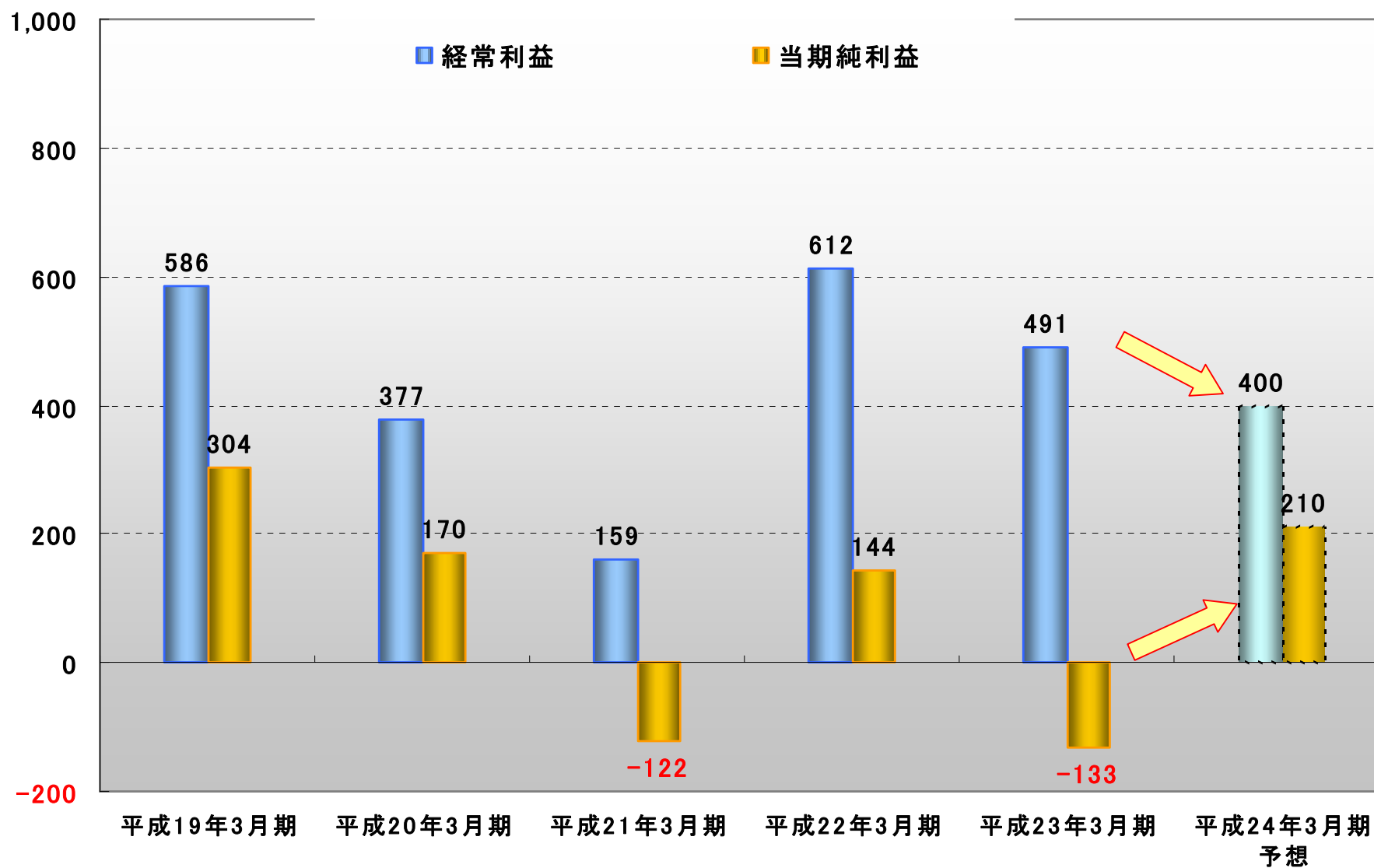
■ 空調事業

■ ボイラ事業



# 利益の推移(予想)

(単位:百万円)



## 空調事業

- ①機器本体は、太陽熱利用空調システム  
太陽熱利用空調システム「ソーラーナチュ  
ラルチラー」や、排温水が活用できる  
「ジェネリンクタイプ」の吸収冷温水機の  
提案等を行い、拡販に努めます。
- ②24時間遠隔監視のメンテナンスシステム「テレメ  
ンテ」の活用および省エネルギー提案を積極  
的に行い、引き続き改修改造工事・メン  
テナンスの受注拡大に努めます。

## ボイラ事業

- ①大型貫流ボイラ「イフリートボート」を  
中心とした機器ラインナップに加え、燃  
料消費量およびCO2排出量を最大22%  
削減可能にする世界初の「油焚き燃  
焼ターンダウン5:1制御システム」や、  
大型貫流ボイラで初めて開発に成功し  
た「VOC燃焼システム」等の、お客様  
の省エネニーズに対応する製品を提  
供し、拡販に努めます。
- ②改修改造工事・メンテナンスは、引き続き、  
省エネルギー改造を中心とした工事の受  
注拡大ならびに年間保守契約の獲得  
向上に努めます。

# 参 考

# 当社の経営方針



当社は、「エクセレントカンパニーの構築」を目指し、顧客ニーズにあった商品を業界一級の技術で提供することにより適正利益を確保し、株主には適正な配当を行うとともに従業員および全事業従事者のために人間性豊かでゆとりのある業務遂行と暮らしを創造し続けながら、社会に貢献することを経営の基本方針としております。



当社の関連する業界では、環境性を考えて今後も省エネルギーおよび再生可能エネルギーを有効利用する機器の開発が活発化していくものと思われれます。

空調業界では、原発事故を発端とした電力供給制限の影響が今後出てくるものと思われれます。また、同様にボイラ業界でもコージェネレーション市場が活発化しており、付帯する排熱ボイラの需要の増加が見込まれます。

本資料に関する問合せ



川重冷熱工業株式会社

企画室 経営管理部

TEL 077-563-1111

**ご注意**

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で把握可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控え下さるようお願いいたします。